

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	附属ぼっぴこ〜んクラブ		
○保護者評価実施期間	令和7年12月8日		令和8年1月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	令和7年12月1日		令和8年1月16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ホールや食堂など、広い支援空間を使用しながら、のびのびと過ごすことができます。また、附属特別支援学校内の軒下や中庭の遊具なども使用させていただきながら、戸外でも安全にのびのびと遊ぶことができます。	利用人数や子どもの特性、その日の活動内容によって、ホールと食堂の部屋を使い分けながら支援しています。	天気の良い日には、校外（散歩）へ出て、近くの公園や神社、公共施設に赴いて遊んだり、地域のお店に赴き、買い物支援等を取り入れています。
2	ムーブメント教育・療法を取り入れています。ムーブメント教育・療法を取り入れることで、子ども（対象者）の自主性、自発性を尊重し、遊具、場、音楽などの環境を活用しながら、動くことを学び、動きを通して「からだ（動くこと）」と「あたま（考えること）」と「こころ（感じること）」の行動全体に関わる調和のとれた発達を援助しています。	全体活動では、季節を感じ取れる活動（季節の行事、戸外活動、ムーブメント活動等）を取り入れながら、豊かな感性を培えるように支援しています。	今後も様々な職員がムーブメントの研修を受講することで、新たな知識や専門性を獲得し、現場に活かしていきたいと考えています。
3	附属特別支援学校と密な連携を図りながら、子どもたちの支援を行っています。	附属特別支援学校の生徒は、学校の先生が直接施設に連れて来られるため、その日の様子等、引継ぎ事項を詳しく伺うことで、その日の支援に活かすようにしています。また、支援の方法（方向性）について、学校と支援会議を行うなど、連携を図りながら、統一した支援を心がけています。	今後も学校と密な連携を図りながら、子どもの支援方法について、統一した支援を行うよう努めます。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所に車がないため、送り迎え等の送迎ができません。また、車を使用した外出活動なども難しいです。	送迎車がないことから、附属特別支援学校の生徒が利用児童の大半を占めており、他の学校の利用者数が少なくなっています。	・相談支援事業所や相談支援専門員には、附属特別支援学校の生徒でなくとも施設を利用できる情報提供を行っています。 ・昨年の夏の長期休暇時には、法人内の車を借りて、各曜日一回ずつ外出行事を計画しました。
2	学校から施設（すなやまの家）を借りて営業しているため、学校の休校日（土、日、祝日、代休日など）には営業することができません。		長期休暇時（春休み、夏休み、冬休み）には、学校から施設の鍵を借りて、営業しています。
3			